２０１３年5月３０日

独立行政法人日本原子力研究開発機構
東海研究開発センター
原子力科学研究所
所長　近藤　悟　殿

日本共産党茨城県委員会
委員長　　田谷　武夫
県議会議員　大内久美子
東海村議団　大名美恵子
同　　川崎　篤子

Ｊ－ＰＡＲＣ事故による被ばく調査と事故原因の徹底究明を求める申し入れ

2013年5月23日に発生した加速器実験施設「J－PARC」ハドロン実験室の放射能漏れ事故について、貴機構などは、被ばく者が34名になったこと、放射性物質が施設の西約1キロまで拡散した可能性があることを明らかにしました。国際的な事故評価尺度でレベル1といわれ、安全軽視の重大な事態が次々と明らかになっています。また関係機関への通報の遅れも重大です。

福島原発事故に続く今回の事故は、県民に深い不安と怒りを広げています。原発だけでなく研究施設においても厳重の上にも厳重な安全対策が求められていることはいうまでもありません。こうした事態を招いたことに強く抗議するとともに、以下の事を緊急に申し入れます。

(1)被ばく範囲の更なる究明と被爆調査と健康調査の徹底を

被ばくした34名はもとより、施設外に出たことから村民の被ばく調査と健康調査を実施してください。

(2)第3者も含め事故原因を徹底的に究明し、速やかに公表してください。

1. ハドロン実験室は主に高エネルギー加速器研究機構などが使用していたと聞きますが、原子力機構と高エネルギー加速器研究機構の役割や責任の分担はどうであったか、明らかにしてください。
2. ビーム電流がなぜ多くなったのか、多くなった時の備えは、どうであったのかを明らかにしてください。
3. 規制庁は「実験機器の誤作動時に放射性物質の漏出を想定しない設計だった」と述べていますが、ホールの吸気系、排気系のつくり、モニターの設置の状況等を明らかにしてください。

4. 通常の運転中は、ホールの空間線量はどのぐらいであったか、現在の管理区分の状況を明らかにし、再検討してください。
5. 実験室の密閉状況、金以外にビームがあたっていないか。なぜ金を標的にしていたのか説明してください。
6. 最近、50Gev リングの電源トラブルがあったと聞いているが、今回の事故との関連の可能性について説明してください。
7. 同じような漏えいを起こす可能性がある施設はないか、点検してください。

(3)「安全神話」の一掃、抜本対策ができるまでは、運転再開をしないこと
1. 放射線量率があがったあとで排気を外部におこないましたが、なぜそのような行動をとったのか。マニュアルはどうなっていたのか。これまでも放射線の発生する実験ではそうしていたのか。徹底的に明らかにしてください。
2. ハドロン実験室の建設計画段階で、加速器運転中に空間線量率が高くなることや、今回のような問題が起きる可能性について安全系の内部検討の段階での指摘はなかったか、明らかにしてください。

(4)通報連絡体制の抜本的改善を
　自治体や住民への連絡がなぜ遅れたのか、通報連絡協定による通報マニュアルを守らないのかを明らかにしてください。

以上